

令和4年度 長野県農業大学校 評価表

評価 A:目標を上回った B:ほぼ目標どおりできた C:目標を下回った

1 学校教育目標

内 容	R4評価
理論と実技を同時に学ぶ実践型の教育により農業技術の高度化、経営の専門化に対応する知識、技術を習得させるとともに、自ら目標やテーマを定めて行う模擬経営・プロジェクト学習並びに寮生活等により他者との協調、自己の確立等の社会性を涵養し、次代の農業・農村を担う優れた人材の養成を目指す。	B

2 重点目標

内 容	R4評価
学生の学習意欲の向上と授業内容の充実に向けて職員の教育力を向上するとともに、進路決定率100%の成果など本校のPRを積極的に行って出願者の確保に努める。	B

3 当該年度の評価項目等

(1)共通項目(総合農学科、実科・研究科)

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R4評価
			成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
学習指導	授業実習内容の充実を図る	<p>授業改善に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教授要目に基づいて計画的に授業を実施できたか。また、教授要目の見直しができたか。 ○ 職員の教育力向上のために研修の機会を計画的に設けることができたか。 ○ 国、県が開催する研修会に参加することができたか。その研修内容を共有することができたか。 ○ ねらい、展開、見とけの観点で授業を行うとともに実物やパワーポイント等を用いたわかりやすい授業を行ったか。 ○ 中間テスト等による学生の理解度の把握や学生への授業アンケートの実施(2回)と、結果を踏まえた授業の改善ができたか。 <p>○ 学生の授業、進路、寮生活などに関する要望を面談などにより随時把握し、学習内容や進路指導の参考としたか。</p>	<p>○職員会議、朝会で協議、確認、情報共有し計画的に授業を実施した。</p> <p>○学科目の変更、講師の異動による教授要目を見直し、HPで公開した。</p> <p>○職員研修を職員会議に併せ3回開催した。</p> <p>○国が主催する研修会に3名参加し、職員会議でその内容を共有した。</p> <p>○1月に開催された県主催の作物別研修会に出席した。</p> <p>○各科目ごとに3つの観点で授業を行い、各科目の実物やパワーポイントによるわかりやすい授業に努めた。</p> <p>○実物やパワーポイントを使ったわかりやすい授業を行った。</p> <p>○中間テストや確認テストを実施し理解度を把握して授業の改善につなげた。</p> <p>○授業アンケートを前期と後期に2回実施し授業改善を行った。</p>	<p>■実習開始時に、作業の目的や内容について十分な説明を行うとともに、わかりやすい授業の実施に努める。</p> <p>■引き続き学生アンケート結果等に基づいた改善、見直しを検討する。</p>	B
		<p>新しい知識・技術への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スマート農業に関する講義の充実と関連企業との連携強化(2社)ができたか。 ○ 「施設園芸(ほ場モニタリングシステム)やタブレット端末等を活用した実践的なプロジェクト研究の支援ができたか。 ○ 新たな生産方式や有機栽培等に関する講義の導入を検討できたか。 ○ 青年農業者、先進的農業経営体への視察研修や講義の拡充が図られたか。 <p>○ GAPや農場HACCPなど新しい国際規格の知識習得や、SDGsやエコマネジメントなどの農場経営における実践について講義、演習を実施したか。</p> <p>○ 「長野県農業を担う人材の教育支援協定」を活用した講義を行うとともに、県内農機メーカーとの連携を検討できたか。</p> <p>○ 関係試験場の開発した新技術や新品種について、現物を踏まえた適期での講義・実習が実施できたか。</p>	<p>○スマート農業について講義の充実のため関連企業(2社)の協力を得て、現地での講義を開催した。</p> <p>○企業のスマート農業の実演会等に参加した。</p> <p>○実践農業経営コース2年生1名が農業経営実習で果樹園に、また、農業経営コースの花き専攻のプロジェクトを行うビニールハウスへ「みどりクラウドシステム」を設置し、携帯端末から樹園地・ハウス内の温度管理等を確認するなどの取り組みを行うことができた。</p> <p>○「みどりの食料システム戦略」について農林水産省関東農政局長野拠点の担当者による講義を受けた。</p> <p>○就職準備演習やゼミナール講義で視察研修や農業者等を招いた講義を実施した。</p> <p>○県内外の青年農業者、先進的農業経営体等への視察研修を実施し、視野を広げるとともに、就農に向けた知識を深めた。</p> <p>○加工出荷を取り入れた先進的な法人への訪問研修を実施し、加工を取り入れることにより廃棄を減らす経営を体験した。</p> <p>○先進農家体験研修や農業実務経験者の実践的講義を実施し、青年農業者活動成果発表会へ参加した。</p> <p>○GAPについては、1学年を対象に国際標準GAPの知識習得のための講義を、2学年はGAP認証取得の手法を修得する演習を実施した。演習の一貫で国際標準GAP認証をぶどうで取得した。</p> <p>●GAP認証審査が学生の夏季休暇と重なり、学生が参加できなかった。</p> <p>○HACCPについては、講義に加え、実習の場でも試験場の取組を通じて学ぶことができた。(畜)</p> <p>○県内農機メーカー(4社)と連携し講義を行った。</p> <p>○新技術や新品種に関する情報、品種や病害虫等の現物を用いた講義・実習を実施した。</p>	<p>■ 先進的農業経営者のもとでの視察研修を積極的にを行い、農業経営の学習機会を増やしていく。</p> <p>■ GAP認証審査日程は認証審査機関と調整し、審査に学生が参加できるようにする。</p>	A
		<p>資格試験の受験者数と合格率の向上に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資格・検定試験の必要性を理解させて受験者数のアップを図るとともに、各資格・検定試験の昨年を上回る合格率を目標に、学生の学習意欲の向上や合格のための準備を支援できたか。 ○ 合格率向上に向け、受験にあたり繰り返しの事前学習や小テストを実施したか。 ○ 指導者のスキルアップと体制づくりに取り組めたか。 	<p>○農業簿記検定(2回)は延べ52名受験し2級1名、3級30名合格した。合格率は60%で昨年を上回った。</p> <p>○農業技術検定(2回)延べ19名受験し2級2名、3級8名合格した。合格率は53%で前年の52%と同等だった。</p> <p>●農業技術検定の受験者数が減少してしまった。</p> <p>○毒物劇物取扱者試験について、35名受験し、12名合格した。合格率34%で前年と同等だった。</p> <p>○大型特殊(農耕車)、フォークリフト、車両系建設機械、けん引(農耕車限定)免許、家畜人工授精師の資格を受験者全員が取得できた。</p> <p>○けん引(農耕車限定)については校内で事前指導を行った。</p> <p>○過去問題の配布や教科書・問題集を利用した勉強時間を設け、合格率向上を図った。</p> <p>○資格取得の支援については積極的に取り組み、事前講習を行った。</p> <p>○農業簿記について講師以外の職員も個別にスキルアップを図り、学生のレベル応じて個別指導を行った。</p>	<p>■資格等の必要性の理解促進を図り受験者数の増加を図る。</p> <p>■小テスト等の時間を増やし、合格率の向上に努める。</p>	B

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R4評価
			成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
学習指導	効率的・計画的な農場利用で学習効果を高める	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践経営者コース2年生の模擬経営実施のための農場や施設等の確保・調整ができたか。 ○ 計画的な作付により、年間通したほ場の有効活用が図られたか。 ○ 1年生は、必要な実習ができたか。また、現地体験実習に必要な基礎的知識、技術を習得させたか。 ○ 定期的な農場運営会議の打ち合わせに基づいて各専攻とも適期にほ場管理ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 旧年度中に作付け計画を作成し模擬経営やプロジェクト研究用のほ場・施設等を確保するとともにほ場の有効活用を図った。 ○ 1年生実習用のほ場を確保し、基礎的な栽培管理の実習を行うことができた。また、現地体験実習前に専攻ごとに時期別の作業を学び、基本的な知識、技術を学んだうえで現地体験実習に送り出すことができた。 ○ 農場運営会議や朝会、職員会議等で打合せを行い、摘果作業など必要な作業を共同で行うなど、適期にはほ場管理を行った。 		B
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生の進路の意向を開き取り、その情報を職員間で共有できたか。 ○ 1年生は11月末を目途に将来の進路を決定し、年度末から活動するよう個別指導できたか。 ○ 2年生は12月末を目途に全員の就職及び就職先等が決定するよう指導できたか。 ○ 雇用就農に向け法人説明会への参加を促すなど法人との接点を多くし理解を深める指導ができたか。 ○ 進路・就職指導等に関し、早い時期から農業農村支援センターや市町村等の関係機関とも情報を共有し連携して対応できたか。 ○ 関係機関と連携し、学生の円滑な就職支援や卒業後のフォローアップに取り組めたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個別面談を実施し、学生の進路についての情報収集、進路指導を実施した。収集した進路情報については職員会議等で職員間で共有を図った。 ○ 1年生は入学直後の個別面談、11月の三者面談に加えて、必要に応じて保護者面談等を行い、個別に進路指導を行った。 ○ 2年生の就職準備状況・就職活動状況を職員で共有し、積極的な就活を促した。 ○ 農業経営コース2年生の就職・就職(進学)の1月末現在の就職決定率は97%となった。 ○ 個別面談の実施により、学生の希望を把握し、農業経営演習Ⅰ・Ⅱを通じ先輩農業者や卒業後就職した者の講義により、就職への意識付けを行った。 ○ 農業法人等合同説明会を開催し、昨年とほぼ同じ19法人の参加があった。また、説明会参加の法人等への就職決定は、4名(8名中)となったほか、会社訪問にもつながった。 ○ 就職を希望する学生については、地域の農業農村支援センター、市町村担当者と情報を共有し指導を行った。 ○ 関係機関と連携し、就職計画認定の支援や卒業後の支援などの相談を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 県外雇用就職を希望する学生向けに、本校及び県外現地機関、全農等の農業団体と連携し情報収集を行う。 	B
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年担当者会議を定期的に行って教授間の情報共有を行い、関係機関とも連携した指導ができたか。 ○ ホームルーム、交通安全・防犯・健康講座などを通じて、生命尊重や社会的ルールを守る意識を高めることができたか。 ○ 寮生活や自治会活動を通じて社会人としての意識を醸成する指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月の会議において各コースの学生の生活状況等を職員間で共有し指導を行った。 ○ メンタル面で課題を抱える学生が複数名いたので、教務会議の際、校長、副校長、学年主任、教授間で情報を共有しチームとして対応した。 ● メンタルの課題を抱える学生への対応には職員も更なるスキルアップが必要だった。 ○ ホームルームを計画に沿って開催し、必要な事項の伝達を行った。 ○ 警察署・消防署と連携し、学校及び寮自治会で交通安全・防犯講習を開催し意識の安全に対する意識の向上を図った。 ○ AED講習会、健康講座を開催した。 ○ 寮生活における生活指導、自治会活動における社会組織活動の必要な事項の指導、現地体験実習前の社会常識の指導等を行い、社会人として通用するよう指導を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 研修等の実施による職員のスキルアップを図る。 	B
生活指導	自他の生命・人権を尊重する精神を養い、男女が共に支えあう豊かな心を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 寮生活での活動を通じ、先輩と後輩の関係を学び、他人を尊敬し思いやる心を育てることができたか。 ○ 1・2年生共通の実習や寮自治会活動での交流事業等により、各コース間および学年間の交流が図られたか。 ○ 各学科ごとの環境に対応した指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生部担当職員が中心となり学生自治会活動支援を行い、寮生活、クラブ活動等を通じて先輩・後輩の関係を学びお互い助け合うなど他人を尊重し思いやる心を育てることができた。 ○ 体育大会、体育デー、のうたい屋、農大祭を通して各コース間及び学年間の交流が行われ、各コース、学年間の交流が図られた。 ○ 果樹実科生及び研究科生全員が参加する体育授業・体育大会や研修旅行等を通じ、学生間の交流を深めることに努めた。 ○ 実科・研究科合同で行う授業やホームルームにおいて交流が図られた。また、野菜花き実科兼研究科、南信実科研究科、畜産実科研究科と共に保健体育授業を実施、全学体育大会に向けて合同練習を行い交流が図られた。 ○ 全学体育大会に南信農業、野菜花き実科研究科との合同チームで参加し、合同練習、体育大会を通じて他の学科の学生との交流が図れた。 		B
		<ul style="list-style-type: none"> ● 農業機械の充実 ○ 農場実習等の農作業に必要な機械と設備の修繕や更新は計画的に行っているか。 ○ 圃場管理に支障が出ないよう、十分な準備とメンテナンス、マニュアルや画像による技能の伝承を進められたか。 ○ 導入したスマート農業機器と設備の効率的利用ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 使用年数が大きく経過している施設、農業機械が多い中で、予算の制約もあり、優先順位を付けて計画的に修繕・更新を行った。 ○ 機械の操作方法を、必要に応じて機械担当者から特別教授等に指導を行った。 ○ 農業機械の講義において動画を活用したメンテナンスの授業を行った。 ○ 実践経営者コースの果樹園、農業経営コースの花き専攻ハウスに「みどりクラウドシステム」を設置し、気象データの分析など有効活用した。 		B
学校運営	農業機械や施設機器の充実と適正な管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業機械、施設及び機器の故障や修理情報が職員間で共有されるとともに、使用後の保守点検のルール化や使用簿への記入徹底などにより、適切な管理運営が行われているか。 ○ 適切な操作方法を習得させようとして学生に機械利用させたか。また、複数指導体制を検討できたか。 ○ 修繕可能な機械類を見極め備品の有効活用がされたか。 ○ 使用できない機械の廃棄が行われたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 使用年数が大きく経過している施設、農業機械が多く、故障等トラブルの発生が多くなっており、故障等が放置されないよう機械担当や特別教授と情報共有を図り、対応した。使用後の保守点検、使用簿の記入等は実施されており、適切に管理した。 ○ 学生の農業機械使用については、必要な講習等を受講させようとして、専攻教授の指導の下使用させた。 ○ 学生が農業機械を使用する際は、複数人で指導すると共に、その都度操作方法などを復習し、適切な利用がなされた。また整備方法についても学習した。 ○ 予算の制約がある中で、対応可能な修繕やメンテナンスは学内で対応した。 ○ 廃棄の対象となる機械はなかった。 		B

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R4評価
			成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
学校運営	学校用地や施設の適切な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ GGAP認証取得団体にふさわしい整理整頓がなされているか。 ○ 実習棟、機械庫等は、定期整備日の設定などにより整理整頓がなされているか。 ○ 定期清掃日の設定などにより、農場以外の学校用地や校舎等施設の維持管理が適切に行われたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ GGAPを果樹(ぶどう)で認証取得などもあり、果樹集出荷施設、資材保管施設等の清掃・洗浄や各種マニュアルを掲示するなど行うことができた。 ○ 農場内を定期的に草刈りや清掃、施設の自主点検を行い維持管理を随時行うことができた。 ○ 定期的な清掃日、当番を設定し、清掃を行った。施設などの自主的検査を毎月行い、維持管理を適切に行なった。 		B
	学生募集のPRを更に充実する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校案内、募集チラシを作成して配布し、農業大専校への関心を高めることができたか。 ○ サンデー見学会、オープンキャンパスおよび体験学習等を充実し、農業大専校への関心を高めることができたか。 ○ 高校訪問や進路指導担当教諭会議等を通じて農大のPRや情報収集ができたか。また農業高校以外の進路担当教諭にも十分周知できたか。 ○ 農業高校との一層の連携を推進するために、「農大・農高の連携会議」を開催し、農高生の体験入学等を実施できたか。 ○ 改革を進めている農大の教育内容や就農支援の様子を各専攻のブログ等で頻繁に発信できたか。 ○ 入試案内、行事等を計画的に紹介するとともに、授業や実習等の動画を載せるなど、積極的に大専校のPRを行うことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 早めに学校案内パンフの原稿準備を進め、例年より早めの6月1日から募集活動を開始、募集チラシとともに2,500部印刷し、県内全高校や希望者に配布した。 ○ 全農業農村支援センター、名古屋事務所、大阪事務所を訪問し、学生募集への協力、学校PRを行った。 ○ サンデー見学会は、30組が参加した。オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症対策として、人数制限(各日定員80名)を設け、2日間開催し、平成29年度以来となる122名(保護者含む。)が参加した。 ○ 新たな広報手段として、コロナ禍という状況も踏まえ、6月からWEBによる相談会を開始した。(3回) ○ 随時学校見学を受け入れた。 ○ 高校訪問は昨年同様実科研究科と連携し、農業高校以外の高校を含め52校を訪問した。高校との連携については、5月に農業高校との進路担当教諭会議を実施した。 ○ 県内高校進路ガイダンスに参加し、学校(学科)紹介、就職進路等説明をした。(11校) ○ 連携会議を3回開催し、情報交換や農業大専校の状況等を説明し連携を図った。 ○ 県内農業高校生を対象とした体験入学は、全県でコロナ感染拡大していたことから開催を中止した。 ○ 授業の様子や学校行事等を農大専用ホームページのブログで情報発信した(50回)。 ○ 入試案内、行事等をホームページやプレスリリースで計画的に紹介した。 ○ 「信州の果実」、「信州のそさい」、「信州くだものニュース」、「信濃毎日新聞」、「南信州新聞」に農業大専校入試案内を掲載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 体験入学は、開催等について農業高校と調整する。 	A
	ホームページの充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広報委員会を定期的に開催するとともに、HPのあり方や新たな広報手段等が検討されたか。 ○ 改革を進めている農大の教育内容や就農支援の様子を各専攻のブログ等で頻繁に発信できたか。(再掲) ○ 入試案内、行事等を計画的に紹介するとともに、授業や実習等の動画を載せるなど、積極的に大専校のPRを行うことができたか。(再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広報委員会を5月に開催し、広報計画やHPウェブサイトレスポンス化を検討した。 ○ 農大ホームページをスマートフォン対応に改善した。 ○ 農大専用HPのブログ掲載回数を増やすなど、入試、オープンキャンパス、農大祭等行事紹介など積極的に情報発信し、農大をPRすることができた。 ○ 入試案内、行事等をホームページやプレスリリースで計画的に紹介した。 ○ 「信州の果実」、「信州のそさい」、「信州くだものニュース」、「信濃毎日新聞」、「南信州新聞」に農業大専校入試案内を掲載した。 		A
	予算執行の適正化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画的な予算執行と無駄を無くすため、農場は専攻別に、管理運営は費目別に執行状況を管理し調整できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農場関連経費は費目別に予算執行状況を把握し、職員への情報提供及び執行時期等の調整を行い、計画的な予算執行を行うことができた。 		B

(2)実践経営者コース

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R4評価
			成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
学習指導	授業実習内容の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生における各論実習の充実と目的意識を持った農業経営体験実習ができたか。 ○ 希望する就農形態に合わせて模擬経営と長期農業経営実習を適正に選択するとともに、就農後予想される課題の把握と対応策が検討できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各論実習は、専攻別に共通する技術実習に加え、栽培希望品目に沿った個別品目の栽培技術実習をおこない技術習得ができた。 ○ 農業経営体験実習は、時期ごとの作業が経験できる配置となっており年度模擬経営を実施するための技術習得ができています。 ○ 模擬経営は、5名が実施し、就農に向けた課題がそれぞれ明確となり2名は就農、2名は経営力向上のための研修継続と就農準備が進んでいる。1名は模擬経営の経験を踏まえ農業への適性を把握し農業法人等への就職を希望することになった。 ○ 果樹経営を希望する学生1名、作物・野菜経営を希望する学生1名は、就農地での農地確保のめどが立っており、就農の準備が整った。 		B
	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就農を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就農支援プログラムに基づき、早めに関係機関や研修先農家と連絡を取り合い就農形態に応じたきめ細かな個別就農支援ができたか。 ○ 職員間の連携により、授業計画、授業管理などのコース運営と就農支援が一体的に実施できたか。 ○ 現役農業経営者にアフターフォローを依頼する等、卒業生のフォローアップが充実できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就農支援プログラムに基づき、卒業後すぐ就農を目指す2年3名、1年3名については、就農先の農業農村支援センター、市、JAと連携し、就農に向けた情報交換をおこなった。 ○ 卒業後すぐ就農希望する2年2名は、就農計画が認定されるなど就農に向けた準備が順調に進んだ。 ○ 各専門担当の職員と連携を図り、1年次から各作目の技術習得を図るとともに2年の模擬経営の実施や1年の模擬経営の計画策定が行われた。 ○ 長期農業経営実習先に卒業後のフォローアップをお願いし、農地の選定等アドバイスをいただいた。 		B

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R4評価
			成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
学校運営	学生募集のPRを更に充実する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就農に向けた相談会、コース説明会等の通年実施や農業高校への働きかけ等によりコースの内容等をアピールし、効果的な募集活動ができたか。 ○ 独自の募集チラシを作成して関係機関や団体に配布し、募集の周知ができたか。 ○ 市町村やJA等の関係機関、団体と連携を密にし、人材の掘り起こしができたか。 ○ 専用ブログやメディア等様々なPR媒体の活用等により、授業内容や卒業生の営農状況を紹介するなど、効果的なPRができたか。 ○ 3回の入試を行い、令和4年度出願者の確保に努めたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○8月14日の実践経営者コースの相談会をはじめ、県内外の就農相談会等でコースのPRを行った。 ○農業高校でのガイダンスで実家が農家の学生に対して積極的にコースをPRを実施した。 ○募集チラシを作成し、市町村、JAや関係団体も出席する県下10広域の就農促進会議等で配布するなど周知を図り、支援センターとの連携により1名が応募、合格した。 ○長野県農業担い手育成基金の相談員と連携を図り、就農相談会等で実践経営者コースへの出願者確保に努め1名が応募、合格した。 ○模擬経営において「スイーツ店とのコラボ」の記事を信毎に掲載をいただくとともに、模擬経営の販売、授業内容についてブログに掲載した。 ○信州の果樹・野菜に各1回、うまくだニュース2回、信濃毎日新聞に2回学生募集の記事を掲載した。 ○第1回目は6名、2回目は1名の応募があり、4名が合格した。3回目は応募がなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ■出願者数の確保のための新しいPR方法の検討 	B

(3) 農業経営コース

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R4評価
			成果(○)と課題(●)	改善策(■)	
学習指導	授業実習内容の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○ プロジェクトは、学生の能力に応じて経営管理能力を習得させるよう、全学生が経済性の検討を充実するとともに、労働時間の考察や検証が取り入れられたか。 ○ 1年生によるプロジェクト巡回は、事前指導により質疑応答など活発に実施できたか。 ○ 1年生は全ての専攻でミニプロジェクトが実施されたか。 ○ マーケティング手法の習得を目的として、のうだい屋(6回)と農大祭が実施できたか。また、農大祭では、1、2年生間で販売・運営方法の伝承や販売物の確保ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○プロジェクト課題設定時から経済性の確認について調査するようにアドバイスをを行い、実習時においても労働時間等を調査することを指導した。 ○より実践的なプロジェクト研究となるよう、担当教授の確認のもと機械操作も各学生に任せた。 ○プロジェクト巡回においては質疑時間を長めに設定、1年生にも質問を促すよう進行係が配慮し、活発な質疑応答が行われた。 ○全ての専攻でミニプロジェクトを実施した。 ○のうだい屋を8月24日から5回開催。8月3日は7月28日に「医療特別警報」が発令された直後であったことから、学生への感染拡大を懸念し急遽中止した。 ○農大祭は、1、2年生間で販売・運営方法の伝承方法を行うとともに販売品目や数量を確保し、短時間で売り切れなどのクレームがなかった。また、ラインや無線機により販売情報(売り切れ等)を学生間で共有し、お客様への円滑な情報提供を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ■消費者ニーズの高い農産物の作付けや安定生産による販売量の確保を図る。 	B
進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就農を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就農への意識づけに向け、農業経営演習を充実できたか。 ○ 就農支援プログラム等に基づく様々な就農形態に応じた個別、計画的支援ができたか。 ○ 卒業生を就農地の現地機関に確実につなげることができたか。 ○ 農業法人合同説明会等を開催するとともに、インターンシップの実施により就農意欲の向上を図れたか(就農率40%以上)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○就農支援について、先輩農業者等による講義だけではなく、上田地域の農業法人や新規就農者を視察する現地演習を取り入れるなど充実を図った。 ○実家就農する1名について1月に現地機関に情報提供を行った。農業法人への就農者については、3月に情報提供を行う。 ○卒業生は就農地の農業農村支援センターに確実につなげた。 ○農業法人等合同説明会を開催し、昨年とほぼ同じ19法人の参加があった。また、説明会参加の法人等への就職決定は、4名(8名中)となったほか、会社訪問にもつながった。 ○1年2名がインターンシップを実施した。 ○2年の農業法人への就農希望者について、訪問や就農の支援を行った。(7法人を訪問) ○長野県農業法人就業フェアへの参加を呼びかけ1年8名が参加をした。 ●就農への意識づけに向けた演習等の充実や農業法人説明会等の開催により就農率の向上を図ったが、就農特に農業法人へ就農する学生が例年になく少なかった(就農率27.3%)。 	<ul style="list-style-type: none"> ■農業の魅力は今以上に伝えられるよう、農業者等からの講義や現地視察の時間を増やす。 	C
学校運営	学生募集のPRを更に充実する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3回の入試を行い令和5年度志願者の確保ができたか(志願倍率1.5倍以上)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3回の入試を行い、目標の志願倍率1.5倍以上を確保することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■農業高校との連携をはじめ、募集のためのPRをより強化していく。 	A